

令和6年10月9日

西部農林水産振興センター県央事務所大田農業部

標 題	地元の農業を体験しよう！アスパラガス・ぶどう～ in 邇摩高等学校
------------	--

(ダイジェスト)

大田農業部では邇摩高等学校と連携し、同校総合学科2年生の生徒を対象に、「地元の農業を知る」、「農業という職業を知る」をテーマに、大田市の主要品目であるアスパラガス・ぶどうの現地視察や収穫体験を行い、農業の魅力を伝えました。

大田農業部では、地元高校等と連携して将来の地域農業の担い手確保の取組を進めており、令和6年9月3日に「地元の農業を知る」、「農業という職業を知る」をテーマに、邇摩高等学校の総合学科（「農業とくらし」系列）の2年生32名を対象に、現地視察研修を開催しました。

同校では、授業の中で、野菜栽培をはじめとした農業を学ぶカリキュラムはあるものの、地域の主要品目であるアスパラガス・ぶどうについて学習する機会がないため、これら品目の特性や魅力、産地の取組について説明のほか、実際に収穫体験を行い、理解を深めました。

アスパラガスの現地視察では、石見銀山アスパラガス生産組合の副組合長から産地概況や軽労化を目的に導入が進んでいる高畝栽培について説明を受け、その後、自ら収穫したアスパラガスをバーベキューコンロで焼いて、採れたての味を楽しみました。

ぶどうでは、石見銀山ぶどう生産組合の組合長から、農業にかける想いを聞き、その後、組合長の元に農家留学中の農林大学生から、農林大学校のカリキュラムや学生生活などの魅力についての説明を受けるなどして、将来の職業として農業を考えるきっかけとなりました。

また、令和4年3月から稼働しているJAアスパラガス共同選果場も視察しました。JA担当者から出荷調製工程の説明、同施設の稼働により生産者の労力負担軽減が図られ、産地拡大に繋がっていることなど、産地の取組について学びました。

参加した生徒からは「大田市の農業について知ることができた」、「今回の研修を自分の将来に繋げたい」といった感想があり、農業の魅力や職業としての農業を感じてもらうことができました。

当農業部では、引き続き、こうした取組等を通じて、地元高校から将来の地域農業を担う担い手が現れるよう関係機関と連携しながら取り組んでいく考えです。



【アスパラガスの収穫】

【ぶどうハウスで農林大学生のお話】

【アスパラガス選果場視察】